

Heidenröslein

野ばら

ゲーテ：作詞 近藤鶯風：訳詞 シューベルト：作曲

Lieblich (♩ = 69)

Sah ein Knab ein Rös-lein—stehn, Rös-lein auf der Hei - den, war so jung und
 1. わらべはみ—た—り } のなかのばら } きよらに
 2. たおりてゆ—か—ん } のなかのばら } たよらに
 3. わらべはお—り—ぬ } のなかのばら } たおりに

mor - gen - schön, lief er schnell, es nah - zu - sehn, sah's mit - vie - len - Freu - den.
 さ—け—る そ—の—い—ろ め—で—つ あ—か—ず—な—が—む
 た—お—れ お—も—い—で—ぐ—さ—に—き—み—を—さ—ん
 あ—わ—れ き—よ—ら—の—い—ろ—か と—わ—に—あ—せ—ぬ

rit. Rös-lein, Rös-lein, Rös-lein—rot, Rös-lein auf der Hei - - den.
 くれ—ない—に—お—う—の—なか—の—ば—ら

(原調：ト長調)

Lieblich (リーブリッヒ) …愛らしく Franz Schubert (→ p.34)

芸術歌曲

芸術的な内容をもった独唱のための小曲を「芸術歌曲」といい、自然発生的な民謡や大衆のための流行歌などと区別して用いられる。ヨーロッパでは19世紀初頭から、シューベルト、シューマン、ブラームス、ヴォルフ、R.シュトラウスらがドイツ歌曲（ドイツ・リート）を系統的に発展させた。フランス歌曲は、フォーレが高い境地を開いた。我が国では、明治以降、山田耕筰、信時潔らによって芸術歌曲の道が開かれ、現在に至るまで多くの優れた作品が生まれている。

Heidenröslein

野ばら

同声3部合唱

ゲーテ：作詞 近藤朝風：訳詞 ヴェルナー：作曲 伊藤康英：編曲

Etwas langsam

mf

Sah ein Knab ein Röslein stehn, Röslein auf der Heiden,
 1. わたべりはみりたか
 2. わらおりてはめゆかりぬ
 3. わらおりてはめゆかりぬ

mf

war so jung und morgensön, lief er schnell, es nah zu sehn, sah's mit vielen
 きたよらにはさたあおわれそおきのもいのでぐいさるかにあきとみわに
 たおりにばあおわれそおきのもいのでぐいさるかにあきとみわに

p

Freuden, Röslein, Röslein, Röslein rot, Röslein auf der Heiden.
 がさむんくれないにおうのなかのばら
 せぬ

Etwas langsam (エトヴァス・ラングザム) …ややゆっくりと

◆原語(ドイツ語) 歌詞の意味◆

見た 一人の 少年が 一つの 小さなばらを 立っている
 Sah ein Knab ein Röslein stehn, / 小さなばら への上に (定冠詞) 薔れ野
 少年が 一輪の 小さなばらが 咲いているのを見つけた, Röslein auf der Heiden,
 レースライン シェーレン / レースライン アウフデア ハイテン

~だった そんなに 若い そして 朝のように美しい 走った 彼は 速く それを 近くで ~すること 見る
 War so jung und morgensön, / Lief er schnell, es nah zu sehn,
 咲いたばかりで 朝のように 清々しく 美しかったので, 少年は、それを 近くで見ようと 急いで 走り寄り,

見た それを ~とともに 多くの 喜び 赤い
 Sah's mit vielen Freuden. / Röslein, Röslein, Röslein rot, / Röslein auf der Heiden.
 ザース ミット フィーレン ツロイアエン / ロート

大喜びで 跳めた。 小さなばら 小さなばら、赤い小さなばら、薔れ野の小さなばら。

■ Johann Wolfgang von Goethe [1749 - 1832] ……ドイツの詩人、小説家、劇作家。代表作に『若きウェルテルの悩み』『ファウスト』などがある。この詩には、シューベルトやヴェルナーのほか、シューマン、レーヴェ、ハウプトマンなど多くの作曲家が作曲をしている。

■ Heinrich Werner [1800 - 1833] ……ドイツの音楽教師で、合唱指揮者としても活躍した。